



第110号

～ 礼儀と節度を考える～

平成武師道 (人間活動学)

仁

001 愛するから愛される

あなたは自分ばかり幸せになろうとしていませんか。

気持ちはわかります。

誰でも自分のことを考えると、やはり生きていかなければならないのですから。

生きるからには幸せになりたいでしょう。

ただ問題は、人はひとりでは生きていけないところなのです。

家族があり、親や兄弟、子供たちが不幸で自分だけが幸せなんて本当に幸せでしょうか。

そんなはずありません。

自分の幸せは家族の幸せ。

家族の幸せは自分の幸せ。

だからこそ、愛されるばかりでは駄目なのです。

愛するからこそ愛されるのです。

多くを愛すれば愛するほど、あなたは多くから愛されるはずです。

ただし、愛したとしても、愛してくれるという見返りを持ってはいけません。

大事なのは、見返りを求めない愛を与えることで、大きく強い心になっていくことなのですから。

愛したとか愛されたとかいうレベルを超え、見返りを求めない愛を与えることを“仁”というのです。



002 人が二人で仁

人はひとりでは生きていけないいつも言っていますよね。

どんなことをやるにしても一人でできる範囲なんてしていますから。

何かを形にしていこうと思ったら、多くの人たちが力を合わせて良いものを作って行くものです。

当たり前のことと思いますよね。

一人よりは二人。

二人よりは三人。

助け合いがないと形にできないものなのです。

お互いに助け合う心があるから、できるのです。

たとえば人が二人と書いて“仁”書きます。

考えてみると、二人以上いないとできないことが助け合いです。

だから仁とはお互いが助け合う気持ちなのです。

やはり人はひとりでは生きていけないものなのです。

左ページにつづく